

学情研賞

コンピュータでポートフォリオ フォリ王！

山梨県山梨市立三富小学校 中村弘和

1 特徴

情報機器の基本的な操作ができる小学校中学年以上の児童が、総合的な学習の時間や教科の学習でポートフォリオとして利用していくことができるソフトウェアである。自分の活動の成果物を蓄積していくことができ、その情報をもとに新しい情報を作成できるとともに、ネットワーク上でのデータベース機能を使い、情報を参照・検索・共有したり、相互に交流したりすることができる。本ソフトはスタンドアロンでも使用できるが、収集・蓄積した情報の、「参照」「具有」「検索」ができる本ソフトの性質上、ネットワークが設定されている環境での使用が望ましい。

2 内容

1. 「しまう」

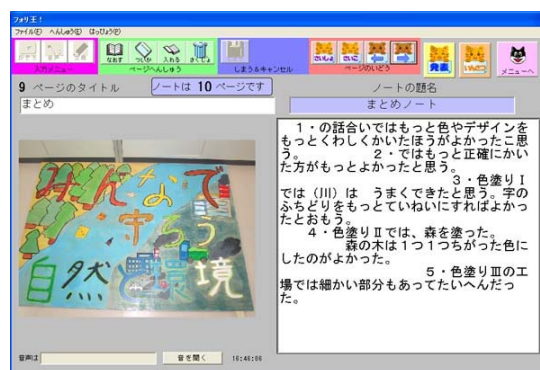
①画像: デジカメ、スキャナで取り込んだ画像をしまうことができる。②音声: ファイルを選ぶか、その場でマイクを使い録音するかを選び、しまう。③ホームページ: 参考になるページ、紹介したいページを見つけたとき、アドレス(URL)と、ページの情報、説明および「キーワード」を入力してしまっておくことができる。

2. 「つくる」

①ノート: 文章・画像・音声を組み合わせてページを作成・蓄積していく。ノートは3つの形式で印刷することができる。②めあて: 自分の学習のテーマや、テーマを設定した理由、活動の具体的な目標を入力し、しまっておくことができる。

3. 「みる」

①ポートフォリオ: 学習の過程で作成したり、しまったりしたデータの履歴情報を表示する。②友達作品: 相手を指定しノートの題名を選択すると、相手に作品を見た感想や評価を送ることができる。③さがす: 本ソフトの全使用者がしまった、画像・音声・アドレスを検索し、参照することができる。



4. 「メール」

①おくる: 相手を指定して、メールを送信することができる。②よむ: 自分に送られてきたメールを読むことができる。③出したメール: 自分がこれまでに出したメールの確認ができる。相手はそのメールをみたかどうかの確認もできる。

3 実践結果・内容

ボランティアについての総合学習で児童はデジタルカメラによる画像の撮影やマイクによる音声入力、音声ファイルの利用を行い、コンピュータへの取り込み・保存を行うことができるようになり、活動の幅が広がった。

何種類か作成したノートをもとに、そこから必要なデータを選択して「発表ノート」を作成することで、選んで処理するという意識を高めることができたと考える。活動後半には、自分のポートフォリオの中にしまっておいて蓄積していくというイメージもできて、活動が進むにつれ中身が増えていくことに喜びを感じている児童も多くみられた。

今回の活動では、それぞれの児童の発表の後、すぐにメールで評価・感想を送るようにした。メールを送る活動を繰り返すことにより、次第に相手のことを気づかした内容になり、評価の観点も多岐にわたり評価の力が向上した。

情報活用の実践力である収集・処理・判断・発信・蓄積といった作業を本ソフトで一元化し、総合的な学習の時間の活動の中で継続して使用した。さらに、発表を行う一つの方法としてコンピュータを利用したプレゼンテーションを経験することで、学習を進める道具の一つとしてマルチメディア機器を積極的に活用することができた。